

# 歯科における 災害対策

## 防災と支援

### 緊急出版

編著：中久木康一

(東京医科歯科大学顎顔面外科助教)

B5判 160ページ

定価2,940円(本体2,800円+税)

ISBN978-4-901894-87-6



…災害が起きた時、なによりもまず、歯科医院における安全確保が重要です。患者およびスタッフの安全を確保し、二次災害を防止し、確実に避難するために、日頃からどんな準備をしておくべきなのか、検討して訓練しておくことが必要です。また、歯科医院を再開するための対策も必要です。BCP(事業継続計画)は2005年ごろより注目をあび、各歯科医院単位でもこのような対策も求められる社会になってきました。

災害時の保健医療体制は、災害対策本部と保健所などを中心として整備されます。歯科でも同様に、なるべく早期に災害時の歯科保健医療体制を立ちあげることにあります。口腔衛生管理用品の配備、応急診療所の設置と運営、巡回しての歯科保健指導や口腔ケアの実施など、災害のタイプや被災状況とその推移を見極めながら、ニーズにあった対応が求められます。特に歯科においては、保健所などの行政職の歯科職はとて少ないため、歯科医師会や歯科衛生士会、歯科技工士会を中心とした地域歯科保健医療従事者の役割が重要になります。

…本書においては、歯科医院における防災対策や、災害発生時の行動目標とともに、地域防災計画の中での歯科保健医療の役割や、その具体的な活動内容、手順などについても、具体的に解説しました。各歯科医院において、それぞれの歯科医院の特性に合った対策はどのようなものかをスタッフとともに話し合い、独自の防災計画をたてていただきたいと思います。

全国の歯科医療関係者にとって、本書が災害時の歯科保健医療体制を知り、準備する教材となるとともに、災害医療、災害看護などの分野との連携のきっかけとなることにより、歯科を含む地域保健の災害によるダメージを最小限とし、そして早期に回復できるようになることを願っています。また、それを足がかりに、歯科が孤立することない地域保健医療体制が構築され、災害時のみならず、地域保健が向上することに結びつくように願っています。(あとがきより)

東北地方太平洋沖地震に被災された皆様、ご家族、関係者の方々に心からお見舞い申し上げます。また被災地において災害対策に全力を尽くしていらっしゃる方々に深く敬意と感謝の意を表しますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

\*著者の申し出により、本書の執筆料は全額、被災地の方々のために寄付いたします。

# 歯科における災害対策 防災と支援

【執筆者】(五十音順)

- 相沢 朋代 (柏崎市役所福祉保健部)  
足立 了平 (神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科教授)  
安藤 雄一 (国立保健医療科学院生涯健康研究部上席主任研究官)  
和泉 忍 (石川県歯科医師会)  
岩嶋 秀明 (日本歯科大学新潟病院歯科技工科)  
岩原 香織 (日本歯科大学生命歯学部歯科法医学センター)  
上野 博 (新潟県歯科技工士会長)  
大内 章嗣 (新潟大学歯学部口腔生命福祉学科教授)  
大友 康裕 (東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科救急災害医学)  
岡崎 好秀 (岡山大学病院小児歯科)  
岡安 晴生 (東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校講師)  
小原真理子 (日本赤十字看護大学国際・災害看護学領域教授)  
河合 峰雄 (神戸市立医療センター西市民病院歯科口腔外科)  
河原 和夫 (東京医科歯科大学大学院政策科学分野教授)  
木下 善隆 (千葉県歯科医師会)  
清田 義和 (新潟県福祉保健部健康対策課)  
久保山裕子 (福岡県歯科衛生士会)  
小室 貴子 (荒川区保健所)  
齋藤 一人 (東京都品川歯科医師会長)  
坂本 友紀 (浜松市口腔保健医療センター)  
佐藤 保 (社団法人岩手県歯科医師会専務理事)  
鳥袋 裕子 (品川区保健所荏原保健センター保健事業係)  
新庄 文明 (兵庫県佐用町南光歯科保健センター)  
竹下 朝也 (静岡県歯科医師会専務理事)  
田中 彰 (日本歯科大学准教授新潟病院口腔外科)  
田中 義弘 (神戸市保健福祉局健康部、元神戸市立中央市民病院歯科部長)  
鶴田 潤 (東京医科歯科大学歯学教育開発学講師)  
寺岡 加代 (東京医科歯科大学口腔保健学科教授)  
戸原 玄 (日本大学歯学部摂食機能療法学講座准教授)  
中久木康一 (東京医科歯科大学顎顔面外科助教)  
中村 宗達 (静岡県健康福祉部医療健康局技監)  
藤原 愛子 (静岡県立大学短期大学部教授)  
船岡 陽子 (社団法人新潟県歯科衛生士会)  
松崎 正樹 (新潟県歯科医師会専務理事)  
丸山進一郎 (日本学校歯科医会前専務理事)  
皆木 省吾 (岡山大学咬合・口腔機能再建学教授)  
村井 真介 (東北大学医学系研究科助教)  
森田 好美 (兵庫県佐用町南光歯科保健センター)  
吉永 和正 (兵庫医科大学地域救急医療学教授/日本DMORT研究会代表)  
渡辺 雅子 (神戸市保健福祉局健康部地域保健課)  
Michael Colvard (College of Dentistry, University of Illinois at Chicago)

【主な内容】

1. 歯科として対応すべき災害とは？  
想定される被害への対策/病院機能への影響とBCP/地域防災計画と歯科保健医療 など
2. 歯科医院としての災害への備え  
患者とスタッフの安全確保/診療室の復興に向かったのステップ/歯科医院における災害対策マニュアル など
3. 歯科としての災害時健康危機支援対策  
災害歯科医療支援コーディネートの実際/中長期的歯科保健医療支援・健康サポート活動 など
4. 災害時の口腔ケアマニュアル  
災害時口腔保健の重要性/口腔ケア体制の実際/摂食困難者への対応案/行政における発災直後から必要とされる口腔ケア製品備蓄について/小児に対する歯科保健
5. 災害時の即時義歯作製マニュアル  
即時義歯の必要性/技工士の対応と技工用品のストック/即時義歯の作製方法の比較
6. 災害歯学教育
7. パンデミックへの歯科としての対応
8. 各地域における災害への対応と対策  
航空機事故を想定した訓練/能登半島地震後の対応/岩手・宮城内陸地震後の対応/東海大地震に向けての体制整備/中越地震、そして3年後に中越沖地震と、2つの震災の経験と対応/災害時の身元確認/阪神・淡路大震災の経験/佐用町水害の経験/福岡西方沖地震における経験

原稿が集まり、校正を依頼し、出版の目処がたってきた平成23年3月11日、未曾有の大地震・大津波に東北から関東地方は襲われた。その後も引き続く東日本各地での地震、さらには原発事故の中、想定をはるかに超える被害、そして、避難者の苛酷な環境が、報道され続けている。この、死者・行方不明者が数万人に及ぶ戦後最大の被害に対し、日本歯科医師会や大学歯学部を中心として、歯科的所見からの個人識別に対して苛酷な環境の中で出務していると聞く。また、被災者に対する巡回歯科保健医療支援も、各都道府県歯科医師会を中心としてタイミングをみて実施されようとしていると聞く。そんな中、とりあえず今できることは、もともとの目的が「多くの方々に知っていただきたい」である本書を、とにかく早く出版することだろうと考え、急いで出版することとなった。(まえがきより)

## 歯科における災害対策—防災と支援

冊

お名前

TEL

ご住所

●取扱いは

●発行 砂書房

TEL 03-3814-6251

FAX 03-3814-6285